

さいたま市文化芸術都市創造審議会(令和元年7月19日開催)における意見

議題	テーマ	意見
本市を取り巻く文化芸術の現況と課題	外部組織との連携	<p>・市内には県が設置する施設もあるが、市内の拠点と考えれば、どこの運営だろうが、市民のための文化機能として活かしていくという姿勢で連携をしてはどうか。</p>
		<p>・市と県は、行政が違うので難しさはあるが、できるところから連携していくべき。利用者から見れば、埼玉会館や芸術劇場、文化センターなどは市内にあるので、料金や近さの差というレベルでしか考えていない。</p>
		<p>・浦和レッズはファンの結束力が有名なので、サポーターと連携して文化に取り組み、裾野を広げてよい。また、来年はオリンピックの開催年だが、オリンピックは「スポーツ」と「教育」と「文化」の3つを一緒にやるフェスティバルであり、スポーツの地域クラブが芸術や文化に関して、一つのセクションを持っていたとしてもよい。市内にJリーグが2チームあるのでうまく連携してはどうか。</p>
	計画の成果指標	<p>・現計画の成果指標「さいたま市を『文化的なまち・芸術のまち』とイメージする市民の割合」については、アンケートの問い方によって数値が変わると思う。</p>
		<p>・浦和や大宮はベッドタウンで、文化のイメージを25%に上げるというのは難しい。15%が25%になると言っても、同じ対象者に聞き続ける訳ではなく、そのような点にも難しさがある。</p>
		<p>・平成28年度はさいたまトリエンナーレがあり、29年度の市民意識調査結果は前年度比で2%上がっている。トリエンナーレのようなイベントをやり続けると25%を達成するかもしれないが、どうして25%に目標設定したか論理的に考えても仕方がない。ただの数字遊びになる気がする。</p>
		<p>・文化度の高さとは何かを今一度考える必要がある。海外の某国では、ゴミが平気で道路に捨てられる光景が日常茶飯事だが、日本ではそれが無い。こうしたことや、例えば、駅で車椅子の方がいる時に、どれだけの人が手伝うかといった間接的な指標から、文化度の高さを換算することもできるのではないか。</p>
<p>・成果指標について、多くの選択肢を並列してアンケートを取るよりは、ここだったら「文化・芸術のまち」という点を一つ挙げ、「とてもそう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、まったくそう思わない」と4段階評価にして、「まあそう思う」と、「とてもそう思う」を合わせると何%と、いうように目標を設定すると、かなりポジティブな結果になると思う。</p>		

さいたま市文化芸術都市創造審議会(令和元年7月19日開催)における意見

議題	テーマ	意見
本市を取り巻く文化芸術の現況と課題	計画の成果指標	<p>・計画の成果指標に関して、文化的なものとして注目すべき指標は、LIFULL HOME's 総研が出している「センシュアス・シティ・ランキング」という都市指標である。具体的には、「まちを歩いていて吹き抜ける風を気持ちよく感じた、緑を心地よく感じた」、「駅前から帰る時に赤提灯で一杯飲んで帰った」など、こういうことがあると生活が楽しいだろうなというような項目が指標として並んでいる。残念ながら1回しか調査していないが、1位が東京都文京区だった。その指標が出る前までは、東洋経済新報社が出している定番の「住みよさランキング」で、1位が千葉県印西市、2位が愛知県長久手町で、ニュータウンが上位となっていた。ニュータウンは数値的に住みやすくできている。しかし実際にニュータウンが住みやすいかどうかは別の問題で、区画が大きくて車は走りやすいが歩くと怖い、と感じる人もいるだろう。そこで、「住んで楽しいまちとはどんなまちか」を徹底的に考えて作られたのが「都市指標」である。文化のまちづくりを考えると参考にしないか。</p>
	文化芸術の拠点	<p>・文化芸術の創造拠点が本市は非常に弱い。東京のベッドタウンという意味で本市と比較される千葉市や横浜市にも市立美術館があり、全国規模の美術展が巡回する拠点となっている。うらわ美術館はグラフィックに特化した特殊な美術館である。さいたま市は政令指定都市で、人口が増加し、大宮も住みたい都市ランキングで上位に上がってきているのに、市内に美術館がないのは残念。</p> <p>・他の政令指定都市を見ると、新潟市、北九州市、浜松市、仙台市等には立派な文化芸術の拠点施設がある。逆に大阪、川崎、横浜など古い政令市は、もともと府や県の分担でやられているのかなと思う。今は施設の時代ではないかもしれないが、施設に伴い、プロデュース面もしっかりされている都市があるので、先進事例として調べる価値がある。</p>

さいたま市文化芸術都市創造審議会(令和元年7月19日開催)における意見

議題	テーマ	意見
アンケート及び各種調査の進め方	アンケート手法	<p>・郵送でアンケートをすると、回答者が特定の世代に集中して意見が偏ってしまうので、学校に協力してもらおうなど、子どもたちの意見をしっかり集められる手段や、インスタグラム、フェイスブック、ツイッターなどSNSも活用し、なるべく広い世代の意見が集まる方法で行うべきである。</p>
		<p>・若者の声は集まりづらいので、ダイレクトに接触するとよい。非常に効果があるのがグループインタビューである。調査費の予算の問題もあるが、この人たちの声が聞きたいと思った人たち5～6人のグループに直接聞いてみたり、普段芸術とか文化の活動に馴染みがなさそうな人たちの声も敢えて聞いてみたりしてもよいのではないか</p>
		<p>・「Ⅰ. 文化芸術都市創造計画の成果指標に関する調査」で、挙がっている海外の都市の規模が大きすぎる。ロンドン、ニューヨーク、パリは、東京と比較する都市である。本市と似たような他都市を調査対象にするべき。海外には「欧州文化首都」という取組があり、年に2都市ずつ選んで、人口30万人からの都市で、年間に様々なプログラムを実施するというしくみでヨーロッパの中を回している。そうした都市が如何なる指標を持っているか調査してもよい。あるいは、さいたま市も入っているCCNJ(創造都市ネットワーク日本)という国内の創造都市と創造農村を対象にしたものの中から選んでもよいのではないか。</p>